

検討の観点と内容の特色 高等学校用 美術1

種目	教科書名	番号・略称	記号・番号	出版社名
美術I	美術1	38 光村	美I 038-901	光村図書出版

項目	観 点	特 色 ・ 具 体 例	該 当 ページ
① 内 容 の 選 択 ・ 程 度	◎学習指導要領、教科の目標を達成するために必要な教材が適切に用意されているか。 ◎基礎的、基本的事項の理解や、その習得のため、適切な配慮がなされているか。	題材、資料、学習活動全般に、学習指導要領に示された「美術Ⅰ」の目標・内容が踏まえられており、生徒が「造形的な見方・考え方を働かせ」て、「生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力」を育成できるよう工夫されている。 A表現・B鑑賞の題材がバランスよく適切に配置されている。また、全ての題材でA表現・B鑑賞を相互に関連させながら学習が深められるよう配慮されている。 日本や西洋の美術だけにとどまらず、幅広い地域や時代の作品が多角的に取り上げられており、生涯にわたり美術を愛好する心情を育み、感性を高め、美術文化について理解が深まるよう配慮されている。 各題材や巻末にまとめられた資料では、作品をつくるときの手がかりや基礎的な技法が具体的に示されており、これらを活用することで、生徒が主体的に学習に取り組み、基礎的、基本的事項を身につけられるよう配慮されている。	教科書全般
② 組 織 ・ 配 列 ・ 分 量	◎内容の組織、配列、分量は、学習指導を有効に進められるように考慮されているか。 ◎中高の接続に対する配慮がなされているか。	題 材 題材が学習指導要領に沿って絵画・彫刻、デザイン、映像メディア表現の分野別に整理され、バランスよく配置されている。内容がひと目でわかるようインデックスで色分けされており、学習指導を進めるうえで使いやすいよう工夫されている。 各題材では学習のねらいを示した目標が記されており、学習指導を効果的に進めることができる。 関連する美術史用語をわかりやすく解説する「美術史ワード」が随所に設けられている。年表とのリンクが示されており、必要に応じて美術史における位置づけを確認させることができる。 表現や鑑賞の題材の随所に、作品を発想し制作する際に参考になる「発想のヒント」が設けられており、発想のしかたが異なる生徒作品や、発想の手だてが紹介されている。 表現や鑑賞の題材には、「作家の手法」というページが設けられており、生徒が作品の主題を生み出す手がかりとできるよう、作家の発想や制作過程が詳しく示されている。 アール・ブリュットの作品を鑑賞する題材や、アジア、アフリカの作家の作品が大きく取り上げられている題材など、美術の多様性を感じさせる作品が多く掲載されている。 屏風や絵巻物、浮世絵が和紙風の用紙に印刷されており、本物に近い風合いで鑑賞することができる。 パブロ・ピカソ、葛飾北斎など、中学校美術科で扱った作家についてさらに深く学べるように、美術史的な背景や、後世の作家への影響などを紹介している。	教科書全般
			教科書全般
			P.9、14、16、34
			P.11、17、24、26、51、59、69
			P.18～19、39、57、61、75
			P.20～21、38、40～41
			P.27～34
			P.4～5、23、34～35
		資 料 各分野の最後に西洋美術、日本美術、デザイン、写真、映像表現、それぞれの年表が用語の解説とともに掲載されており、各ジャンルごとに歴史を概観することができる。また、題材へのリンクが示されているので、関連づけて指導することができる。 描き込める紙に印刷された8ページの「鉛筆 BOOK」が設けられている。中学校美術科で学習したことをふまえ、鉛筆の削り方から石膏デッサンまで、表現の基礎となる鉛筆に関わる技法を幅広く学ぶことができる。 巻末には「水彩絵の具で描く」「油絵の具で描く」などの技法についての資料がまとめられており、制作の流れや用具の使い方を適宜参照しながら学習指導を進めることができる。 「発想の広げ方」では、発想を生み出し、広げるためのさまざまな方法が紹介されている。また、発想を広げるツールも紹介されており、表現や鑑賞に役立てることができる。 色彩に関する資料が計14ページ設けられ、〔共通事項〕の指導に活用することができる。「混色のヒント／トーン別カラーガイド」は教科書から切り離すことができ、持ち運んで活用することができる。	P.42～45、46～47、64～65、76～77、78～79
			P.81～88
			P.89～111
			P.112～115
			P.118～127、129～132
		Q R コ ン テ ン ツ 各題材や巻末資料には適宜 QR コードが掲載されており、関連する QR コンテンツとリンクしている。 主要な「美術史ワード」や、大きく取り上げている作品や作家については、QR コンテンツで解説動画を視聴し、鑑賞を深めることができる。 「鉛筆 BOOK」および題材や資料の技法解説ページからは、それぞれの技法の解説動画を視聴することができる。また、〔共通事項〕や発想に関連する資料ページは、「三原色体感ツール」など、それぞれの学習を深めるためのコンテンツにリンクしている。 主な表現や鑑賞の題材は、全国の生徒作品を掲載した QR コンテンツにリンクしている。多様な生徒作品を「作者の言葉」とともに鑑賞し、自分の表現に生かすことができる。	教科書全般
			教科書全般
			P.26、81～88、89～124
			P.6、8、16、22、38、50、68、72
③ 使 用 上 の 便 宜	◎学習意欲を高めるための配慮がなされているか。 ◎用語・記号の取り上げ方や記述のしかた、活字の大きさ、行間などは適切か。	表 記 ・ 表 現 用語や表記は統一されており、記述のしかたも適切である。 教科書に使用されているマークは、誰もが識別しやすい形や色で示されている。題材の随所には関連する巻末の資料ページを示したマークがあり、学習内容に関連した資料を活用しやすいよう工夫されている。	教科書全般
		教 育 へ の 配 慮 UD 特 別 支 援 カラーユニバーサルデザイン、特別支援教育の観点から専門家の校閲がなされており、誰もが学習しやすいよう配慮して紙面がつくられている。 活字は鮮明で、読みやすい大きさ、フォントが使用されており、キャプションなどの比較的小さい文字には UD フォントが使用されている。	
④ 造 本 上 の 配 慮	◎印刷の鮮明さ、製本などは適切か。 ◎環境保全への配慮がなされているか。	A4 ワイド判 (297 × 232mm) の紙面を生かし、観音開きのページや、2 ページ大での作品掲載などが取り入れられている。迫力ある紙面で生徒の学習意欲を高めるとともに、作品を細部まで鑑賞することができる。写真・図版も鮮明で効果的である。 製本が堅牢である。表紙はポリプロピレンラミネート加工により、画材や粘土などによる汚れにも対応できる。また、環境に配慮した紙と植物油インキが使用されている。	教科書全般
⑤ 所 見 総 合	◎上記観点から見た、全体的・総合的な当教科書の特徴。	学習指導要領に合わせて分野別に整理して構成され、幅広い表現を支援するヒントや多角的な鑑賞体験の提案、表現と鑑賞の各題材で活用できる多様で豊富な資料、QR コンテンツなどが盛り込まれている。「美術の幅広い創造活動」を通して、「生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力」を育成するという「美術Ⅰ」の学習指導要領の目標に合致している。	教科書全般

検討の観点と内容の特色 高等学校用 美術2

種目	教科書名	番号・略称	記号・番号	出版社名
美術Ⅱ	美術2	38 光村	美Ⅱ 701	光村図書出版

項目	観 点	特色・具体例		該 当 ページ
① 内 容 の 選 択 ・ 程 度	◎学習指導要領、教科の目標を達成するために必要な教材が適切に用意されているか。 ◎基礎的、基本的事項の理解や、その習得のため、適切な配慮がなされているか。	学習指導要領に示された「美術Ⅱ」の目標・内容を踏まえ、A表現・B鑑賞の題材がバランスよく、相互に関連を図りながら適切に配置されている。		教科書全般
		「美術Ⅰ」の学習を基礎にして、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成することをねらいとする「美術Ⅱ」の性格を踏まえて、学習内容が工夫されている。		
		日本や西洋の美術だけにとどまらず、幅広い地域や時代の作品が多角的に取り上げられており、生涯にわたり美術を愛好する心情を育み、感性と美意識を高め、美術文化について理解が深まるよう配慮されている。		
		各題材や巻末にまとめられた資料では、作品をつくるときの手がかりや基礎的な技法が具体的に示されており、これらを活用することで、生徒が主体的に学習に取り組み、基礎的、基本的事項を身につけられるよう配慮されている。		
② 組 織 ・ 配 列 ・ 分 量	◎内容の組織、配列、分量は、学習指導を有効に進められるように考慮されているか。	題 材	題材が学習指導要領に沿って絵画・彫刻、デザイン、映像メディア表現の分野別に整理され、バランスよく配置されている。内容がひと目でわかるようインデックスで色分けされており、学習指導を進めるうえで使いやすいよう工夫されている。	教科書全般
			各題材では学習のねらいを示した目標が記されており、学習指導を効果的に進めることができる。	教科書全般
			「作家の手法」というページでは、生徒が作品の主題を生み出す手がかりとできるよう、作家の発想や制作過程が詳しく示されている。	P.4～5、23、30～31、40～41、46～47、51
			掲載作品のアイデアスケッチが題材の随所に掲載されており、生徒が作品の主題を生み出す手がかりとすることができる。	教科書全般
			鑑賞中心の題材「比べて鑑賞する」では、作品を比較鑑賞することで共通点や相違点について対話したり、それぞれの作品のよさを感じ取ったりするなど、実感的に理解を深めることができる。	P.6～7、42～43
		資 料	色彩に関する巻末資料「トーン別カラーガイド」は、配色を考えたり、デジタルで色をつくる際に活用することができる。また、教科書から切り離すことができ、折りたたんで持ち運ぶことができる。	P.69～72
			写真に関する資料「写真撮影の基本」「写真を編集する」では、撮影の技法だけでなく、データを適切に編集して保存する方法を掲載しており、端末を使った学習にも活用することができる。	P.56～59
			「漫画表現の技法」では、実際の漫画作品の制作過程を例に、漫画制作の流れを学ぶことができる。また、多様な表現技法を用いた作品が紹介されており、幅広い表現に挑戦する手がかりとすることができる。	P.60～61
			「アニメーションの歴史」では、日本や世界のアニメーションの歴史が各時代のキーワードや図版とともに整理されており、アニメーションの誕生から21世紀のアニメーションに至るまでの流れを理解することができる。	P.62～63
		Q R コ ン テ ン ツ	各題材や巻末資料には適宜 QR コードが掲載されており、関連する QR コンテンツとリンクしている。両観音開きで掲載された「システィーナ礼拝堂」には、動画付きの音声ガイドが用意され、鑑賞を深めることができる。	教科書全般
巻末資料「学習を支える資料一覧」の QR コンテンツでは、鉛筆デッサンをはじめ、水彩絵の具を用いた風景画や油絵の具を用いた静物画などさまざまな作品の制作手順が、動画で詳しく紹介されている。また、色の仕組みを理解するための色立体の解説動画や、美術史の用語の解説も見ることができ、知識を深めることができる。	P.66～67			
全国の生徒作品を掲載した QR コンテンツが、関連する題材とリンクしている。多様な生徒作品を鑑賞し、自分の表現に生かすことができる。	P.8、20、28、48			
③ 使 用 上 の 便 宜	◎学習意欲を高めるための配慮がなされているか。 ◎用語・記号の取り上げ方や記述のしかた、活字の大きさ、行間などは適切か。	表 記 ・ 表 現	用語や表記は統一されており、記述のしかたも適切である。	教科書全般
		U D ・ 特 別 支 援 教 育 へ の 配 慮	カラーユニバーサルデザイン、特別支援教育の観点から専門家の校閲がなされており、誰もが学習しやすいよう配慮して紙面がつくられている。	
			活字は鮮明で、読みやすい大きさ、フォントが使用されており、キャプションなどの比較的小さい文字には UD フォントが使用されている。	
④ 造 本 上 の 配 慮	◎印刷の鮮明さ、製本などは適切か。 ◎環境保全への配慮がなされているか。	A4 ワイド判 (297 × 232mm) の紙面を生かし、観音開きのページや、2 ページ大での作品掲載などが取り入れられている。迫力ある紙面で生徒の学習意欲を高めるとともに、作品を細部まで鑑賞することができる。写真・図版も鮮明で効果的である。		教科書全般
		製本が堅牢である。表紙はポリプロピレンラミネート加工により、画材や粘土などによる汚れにも対応できる。また、環境に配慮した紙と植物油インキが使用されている。		
⑤ 所 見 総 合	◎上記観点から見た、全体的・総合的な当教科書の特徴。	学習指導要領に合わせて分野別に整理して構成され、表現を支援するヒントや多角的な鑑賞体験の提案、表現と鑑賞の各題材で活用できる資料などが盛り込まれている。「美術の創造的な諸活動」を通して、「生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力」を育成するという「美術Ⅱ」の学習指導要領の目標に合致している。		教科書全般

検討の観点と内容の特色 高等学校用 美術3

種目	教科書名	番号・略称	記号・番号	出版社名
美術Ⅲ	美術3	38 光村	美Ⅲ 701	光村図書出版

項目	観 点	特 色 ・ 具 体 例		該 当 ページ
① 内 容 の 選 択 ・ 程 度	◎学習指導要領、教科の目標を達成するために必要な教材が適切に用意されているか。 ◎基礎的、基本的事項の理解や、その習得のため、適切な配慮がなされているか。	学習指導要領に示された「美術Ⅲ」の目標・内容を踏まえ、A 表現・B 鑑賞の題材がバランスよく、相互に関連を図りながら適切に配置されている。		教科書全般
		「美術Ⅰ」および「美術Ⅱ」の学習を基礎にして、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成することをねらいとする「美術Ⅲ」の性格を踏まえて、学習内容が工夫されている。		
		日本や西洋の美術だけにとどまらず、幅広い地域や時代の作品が多角的に取り上げられており、生涯にわたり美術を愛好する心情を育み、感性と美意識を磨き、美術文化について理解が深まるよう配慮されている。		
		各題材や巻末にまとめられた資料では、作品をつくるときの手がかりや基礎的な技法が具体的に示されており、これらを活用することで、生徒が主体的に学習に取り組み、基礎的、基本的な事項を身につけられるよう配慮されている。		
② 組 織 ・ 配 列 ・ 分 量	◎内容の組織、配列、分量は、学習指導を有効に進められるように考慮されているか。	題 材	題材が学習指導要領に沿って絵画・彫刻、デザイン、映像メディア表現の分野別に整理され、バランスよく配置されている。内容がひと目でわかるようインデックスで色分けされており、学習指導を進めるうえで使いやすいよう工夫されている。	教科書全般
			各題材では学習のねらいを示した目標が記されており、学習指導を効果的に進めることができる。	教科書全般
			掲載作品のアイデアスケッチが題材の随所に掲載されており、生徒が作品の主題を生み出す手がかりとすることができる。	教科書全般
			鑑賞中心の題材「比べて鑑賞する」では、作品を比較鑑賞することで共通点や相違点について対話したり、それぞれの作品のよさを感じ取ったりするなど、実感的に理解を深めることができる。	P.12～15
		資 料	「社会を支える美術の仕事」では、美術に関わるさまざまな職業が紹介されている。イラストを効果的に用いた紙面で、美術への興味・関心を喚起させ、キャリア教育につながる内容である。	P.30～33
			「ポートフォリオをつくる」では、作品集のつくり方が詳しく掲載されており、3年間の学びの集大成として、卒業を控えた生徒が参考にすることができる。	P.34～35
			「美術館の役割」では、美術館の社会における役割や学芸員の仕事、企画展ができるまでの流れを学ぶことができる。	P.36～37
		コ ン テ ン ツ Q R	各題材や巻末資料には適宜 QR コードが掲載されており、関連する QR コンテンツとリンクしている。2 ページ大で掲載された「洛中洛外図屏風」には、動画付きの音声ガイドが用意され、鑑賞を深めることができる。 巻末資料「学習を支える資料一覧」の QR コンテンツでは、鉛筆デッサンをはじめ、水彩絵の具を用いた風景画や油絵の具を用いた静物画などさまざまな作品の制作手順が、動画で詳しく紹介されている。また、色の仕組みを理解するための色立体の解説動画や、美術史の用語の解説も見ることができ、知識を深めることができる。	教科書全般 P.38～39
③ 表 記 ・ 表 現 お よ び 使 用 上 の 便 宜	◎学習意欲を高めるための配慮がなされているか。 ◎用語・記号の取り上げ方や記述のしかた、活字の大きさ、行間などは適切か。	表 記 ・ 表 現	用語や表記は統一されており、記述のしかたも適切である。 教科書に使用されているマークは、誰もが識別しやすい形や色で示されている。題材の随所には関連する巻末の資料ページを示したマークがあり、学習内容に関連した資料を活用しやすいよう工夫されている。	教科書全般
		教 育 へ の 配 慮 U D ・ 特 別 支 援	カラーユニバーサルデザイン、特別支援教育の観点から専門家の校閲がなされており、誰もが学習しやすいよう配慮して紙面がつけられている。 活字は鮮明で読みやすい大きさ、フォントが使用されており、キャプションなどの比較的小さい文字には UD フォントが使用されている。	
④ 造 本 上 の 配 慮	◎印刷の鮮明さ、製本などは適切か。 ◎環境保全への配慮がなされているか。	A4 ワイド判 (297 × 232mm) の紙面を生かし、2 ページ大での作品掲載などが取り入れられている。迫力ある紙面で生徒の学習意欲を高めるとともに、作品を細部まで鑑賞することができる。写真・図版も鮮明で効果的である。 製本が堅牢である。表紙はポリプロピレンラミネート加工により、画材や粘土などによる汚れにも対応できる。また、環境に配慮した紙と植物油インキが使用されている。		教科書全般
⑤ 所 見 総 合	◎上記観点から見た、全体的・総合的な当教科書の特徴。	学習指導要領に合わせて分野別に整理して構成され、表現を支援するヒントや多角的な鑑賞体験の提案、卒業を控えた生徒の参考になる資料などが盛り込まれている。「美術の創造的な諸活動」を通して、「生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力」を育成するという「美術Ⅲ」の学習指導要領の目標に合致している。		教科書全般